

よしかわICT教育通信

発行：R4.7 吉川市教育委員会 ☎984-3564（学校教育課）

Vol. 12

ICTとは、Information and Communication Technology、つまり「情報通信技術」を意味します。ICT教育は、教育現場で活用される情報通信技術そのものや、取り組みの総称です。

学力調査 コンピュータ化に向けて

埼玉県は県学力・学習状況調査を令和6年度から全面的にCBT化することを目指しています。

CBTはマークミスが減らせる、教科の特性に合った出題ができる等のメリットがあり、PISA(国際学習到達度調査)や各種資格試験等で導入が進んでいますが、一方で安定したインターネット環境が必要など課題もあります。

CBT化に向け、7月15日に市内の小学4年生～中学3年生の全児童生徒を対象とした一斉接続確認を行いました。ネットワークや操作面の課題を調査するなど準備を進めています。

CBTはICTの操作に慣れていないと問題を解く以前につまずいてしまう可能性もあります。日頃からICT機器を使いこなせるようになることが重要だと言えるでしょう。

CBTとは：“Computer Based Testing” コンピュータ使用型の試験・調査のこと



CBT 接続調査の様子

テスト後すぐに評価を知ることができる

マークシートの読み取りエラー、マークミスが減る

問題用紙の印刷、輸送のコストが削減できる

CBTの良さ

親子で考えよう タブレットの使い方

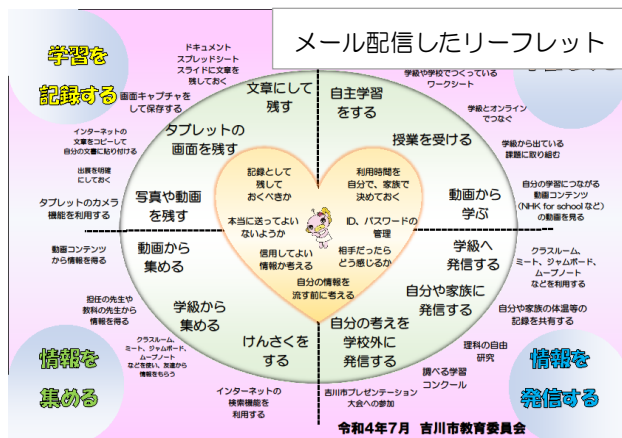
今年の夏休み、ICTを利用した宿題や研究・調べ学習、自主学習ができるようにタブレット端末を持ち帰っていると思います。具体的にどのようなシーンで使えるかリーフレットが配信されていますので、タブレットを1つの文房具のように扱えることを目指して活用しましょう。

ご家庭で考えてみましょう

タブレット端末には、夜間のインターネット遮断（小学生が21時～6時、中学生が22時～6時）、不適切な検索のブロック等の制限をかけていますが、ICTを使うことが当たり前の時代は「制限する」「使わせない」ではなく、最終的には自分で「上手に使う」ことが求められます。

この夏休みに親子でタブレットの使用時間など使い方を話し合い、ルールを決めてみましょう。

今年度は各校で保護者様向けのICT講座を実施しています。対面またはオンデマンド配信という形で実施していきますので、ぜひご参加ください。



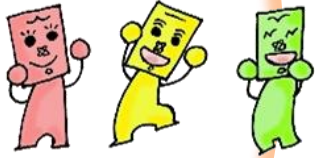
保護者様向け講座（中曽根小）
写真：東武よみうり新聞社提供

ICT じゅつ

いつもちゃんとつかおう

第12回

夏休みに家庭・家族内で一緒にできること



前はデジタル社会に未来を生きる子どもたちに求められる力、資質について触れました。今回は、そのような力・資質を高める夏休み中に親子でできることについてです。

この5つの力・資質を覚えていますか。これらは、本来普段の生活の中で端末等を使いながら培われていきます。夏休みはそのいい機会でもあります。ぜひ堅苦しくせず、家庭内で家族一緒にゲーム感覚で試みるとよいでしょう。

デジタル社会・予測困難な社会

- インクルーシブ** 多様な視点、他者の尊重・共感
- 情報力** 多様なメディア投稿の評価
- 活動参加** テクノロジーを用いた問題解決、貢献
- バランス** 自分のデジタル使用時間や活動の優先順位の確立
- アラート** 自分や他者の安全の確保



端末は、必要なとき、思いついたときに使える身近なツールとしたいもの。学校の勉強だけでなく、日常の情報や日々のニュースなどを集めることで「情報力」や「インクルーシブ」「アラート」の力も鍛えられます。

家庭内でゲーム的に集め合い、選んだ理由やそれについての考え、ニュース等の正否などを家族間で話題にしてみても良いでしょう。

また、身の周りの気になること、危険、不思議なものを集めてみて、家族で話し合ってもいいでしょう。端末の使い方、時間なども親子で話し合い決めるのが「バランス」の力をつけるいい機会です。

さらに、そうしたことを端末に記録し、その成果を親類の集まり等で紹介するなどは、「活動参加」への芽をつくるいい契機ともなります。

情報力

視野の拡大
思いの確立
意見・考えの共有

親子、兄弟姉妹で日々のニュースや情報を集めて、親子で話題とする

日常生活の気になる情報・ニュース集め



気づきを端末で記録

アラート
身近なリスク発見

「なぜ、そう思うのか?」「どうしたらいいだろう?」への誘い

「危ないな」「心配だな」「大丈夫?」への気づき



長期休業こそ身の周りの〇〇に気づく眼を育てるチャンス